

〈市民協働庁内推進委員〉

市民協働は、市の仕事のあらゆる分野に及び、複数の部及び課に関連することが考えられ、横断的な連携・協力が必要。

市の庁内各部が縦割りの行政運営という意識をなくし、全庁的に連携・協力できる仕組みとして導入。

| | |
|-------------|--|
| 平成 29 年度 | 【協働の基礎を学ぶ／地域で働く先輩職員からのアドバイス】 講師：市民活動センター ゲストスピーカー：大阪市生野区役所地域まちづくり課 大阪市東成区市民協働課 |
| | 【現場研修】 箱の浦まちづくり協議会、校区カフェ、校区子育て支援 |
| | 【現場研修後の振り返り(グループワーク)】 講師：市民活動センター |

| | |
|-------------|--|
| 平成 30 年度 | 【みんなで協働を考えよう】 行政、商店街、地域のグループに分かれ、ロールプレイ 講師：市民活動センター |
| | 【協働の基礎知識を学ぶ】 講師：京都産業大学経営学部ソーシャルマネジメント学科教授 ゲストスピーカー：藤井寺市市民生活部協働人権課 |
| | 【現場研修】 市民公益活動団体、校区カフェ、箱の浦まちづくり協議会、あたごプラザ協議会 |
| | 【現場研修後の振り返り(グループワーク)】 講師：市民活動センター |

| | |
|-----------|---|
| 令和元 年度 | 【現場研修】 市民公益活動団体、校区カフェ、箱の浦まちづくり協議会、あたごプラザ協議会 |
|-----------|---|

〈〈令和2年度〉〉

研修の開催なし

| | |
|------------|-----------------------------------|
| 令和 3 年度 | 【協働を身近に感じる】 講師：国際文化交流協会 |
|------------|-----------------------------------|

研修受講後の職員アンケート

| |
|--|
| <p>協働の最初のステップである“相手を知り、想いを共有する”ことに関して、自分自身の考え方の土台を作ることができた。</p> |
| <p>地域が取り組まれている活動の幅広さや積極性を知り、協働を考える上で幅が広がったように思う。</p> |
| <p>日常業務では、市民活動団体と接する機会がないので、とても興味深かった。</p> |
| <p>市民活動団体に共通する問題点は、継続していくことの難しさだと思う。市民団体の協力なくして市政が成り立たない今、市としてできることを柔軟に考えないといけない。 大きな発想の転換が必要と感じた。また、現場研修は、委員以外にも多くの職員に参加してもらったほうがいい。</p> |
| <p>行政も市民を知らなければいけないし、市民にも行政を知ってもらいたい。 市民と行政と一緒に阪南市を良くするために、上辺だけで終わらないようにしたい。</p> |
| <p>資源は限られているかもしれないけれど、人が集まり、情報が集まればできることがこんなにも広がるということを知ることができて良かった。</p> |
| <p>市民が行う事業に対して、行政がどう関わっているのが見えなかった。</p> |
| <p>気が付かなかった所に潜在的ニーズ(市民の課題)があることに驚くと共に自分自身の思考(頭)の柔軟性の無さを感じた。行政だからと言って深く考え過ぎず、まずは行動をすることが大切と思えた。</p> |
| <p>市の事業でもそうであるが、良い取り組みを実施しているが、周知されていない。周知できていないことが多いように思う。</p> |
| <p>委員として、もっと考えなければいけないこと、行動を起こさなければいけないということは理解しているが、どうしても“協働”を考えるとときに“市民要望”が強く打ち出されるように感じてしまっている。今回の研修を通じて、協働の最初のステップである“相手を知り、想いを共有する”ことに関して考え方を深めると共に、市職員の一人として市全体の業務を把握していけるように努力していきたい。</p> |
| <p>地域課題を地域で共有することにより、地域の方を巻き込んだ取組みにしていくことが非常に重要である。また、シニア世代だけでなく、多世代に取組みを広げ、展開していることが地域の中で好循環を生み出しているのではないかな。</p> |
| <p>現場の様々な問題解決に向けた取組み等への強い思いというものを感ずることができ、更なる市民協働の必要性を考える機会となった。</p> |
| <p>市職員への研修のほか、市民・団体への研修、視察など積極的に人材育成、情報提供を行う必要があると感じた。</p> |